

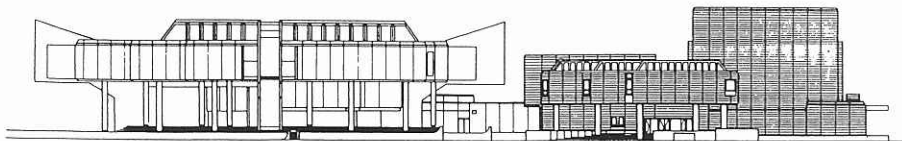
古賀フミ 作  
佐賀錦紗綾形地菱押文帯「秋芳」  
昭和60年(1985)  
第32回日本伝統工芸展  
出品作品 個人蔵

## 佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ARTMUSEUM

1 October 2007

No.139



## 展覧会案内 「人間国宝 古賀フミ 佐賀錦作品展」

### ○趣 旨

佐賀錦は、和紙または金銀の箔や漆を置いた和紙を細く裁断して経紙（たてがみ）とし、多彩な絹糸を緯糸（よこいと・ぬきいと）として竹筥（たけべら）を用いて織る佐賀県特有の染織技法の作品です。

綾織（あやおり）を中心とし、菱形、紗綾形（さやがた）などの幾何学文様を基調としています。

江戸時代後期、佐賀藩の城内で女性のたしなみとして制作され始めたといわれています。

初め粗物（くみもの）、組錦（くみにしき）とよばれていましたが、後に広く流行・発達し、明治時代後期以降「佐賀錦」の呼称が広く用いられています。

伝統的な技法を基本としながら、素材の吟味、織り方の創意工夫が加えられて工芸品として高い評価を得、佐賀錦の作域を大きく広げる制作活動が行われており、歴史的にも芸術的にも価値の高い染織技法となっています。

古賀フミ（本名 西山フミ）さんは、佐賀県佐賀市に生まれました。幼少の頃から曾祖母と母の指導を受け、佐賀錦の伝統的な制作技法を習得してその修練を重ねました。

昭和41年（1966）東京に移り、染織作家として独立。さらに研鑽を積んで伝統的な佐賀錦の技法を高度に体得しました。

自宅の庭に藍や茜（あかね）などを栽培して染料を確保し、自ら絹糸を染色するなど素材の吟味、織り方にも創意工夫を加えて工芸品としての佐賀錦の作域を大きく広げる制作活動に専念しています。

とりわけ、竹筥を用いる伝統的技法では、織台（おりだい）に経紙を張り、竹筥で経紙を拾いながら緯糸を通して錦模様を構成する昔ながらの、時間のかかる作業が中心となります。

日本伝統工芸展等には、地色（じいろ）と地文様（じもんよう）を効果的に生かした大作の帯を中心に、優れた色彩感覚を発揮して上品で雅やかな優品を発表しています。現代感覚に溢れる独自の作風を確立して、佐賀錦の芸術的価値を一層高めています。

平成6年（1994）6月27日、重要無形文化財「佐賀錦」の保持者に認定されました。

この展覧会は人間国宝・古賀フミさんの魅力あふれる佐賀錦の作品を、はじめて佐賀で紹介するものです。

（学芸課 課長 吉永陽三）

○会 期 平成19年10月25日（木）～11月18日（日）

※月曜休館／延べ開館日数＝22日

○主 催 佐賀県、佐賀県教育委員会、  
佐賀県立美術館、佐賀新聞社

○会 場 佐賀県立美術館（2号・3号展示室）

○協 賛 ㈱佐賀トヨベツ株式会社

○観 覧 料 大人500円（400円）

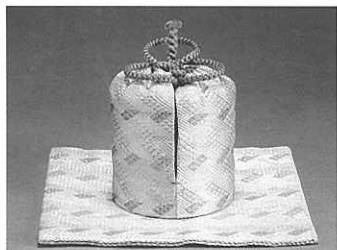
大学生300円（200円）

（ ）内は20人以上の団体割引料金及び  
前売り料金／高校生以下無料

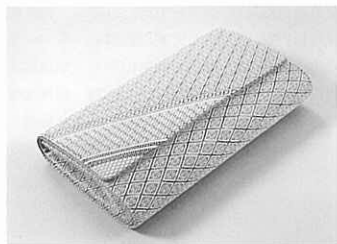
○展示作品 約70点

（帯・文箱・箆袋・ハンドバッグなど）

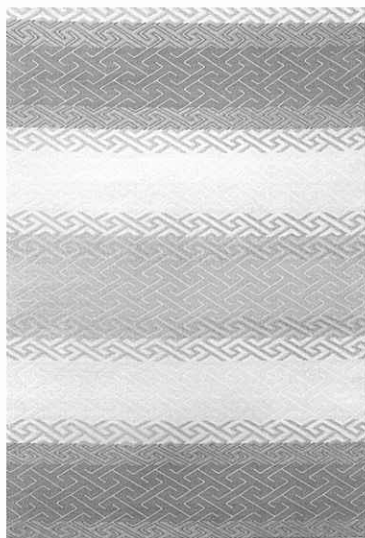




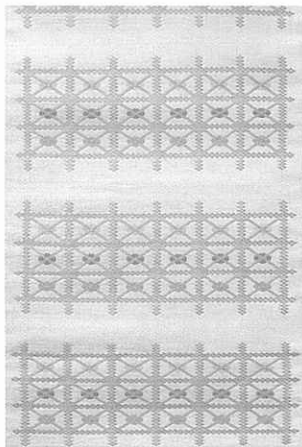
佐賀錦流弧菱文和巾「花筏」 昭和44年（1969）



佐賀錦ハンドバッグ 昭和42年（1967）  
東京国立近代美術館所蔵



佐賀錦鍵紗綾文帯「桐風」 昭和61年（1986）



佐賀錦小菱格子文帯「花の扉」 昭和58年（1983）



佐賀錦菱櫛文雅袋「波光」 平成2年（1990）

## あらかしコンサートを開催しましたー博物館の森の小さな音楽会ー

県立博物館・美術館は、佐賀城公園の水と緑に囲まれた静かで快適な環境の中にあります。このすぐれた環境を活かし、県民の皆さまに音楽を楽しみながら博物館・美術館をもっと身近に親しんでもらえるよう、細文アラクシが育つ屋外展示場で県内演奏家による「あらかしコンサート」（ミニ・コンサート）を5月11日（金）と7月13日（金）に開催しました。

このあらかしコンサートでは、誰にでも親しみやすい楽器と曲目を選び、春・夏の夕方のひと時を素敵な音楽でゆっくりお過ごしいただきました。

・5月11日（金）18：30～19：30

演奏：トリオ ドゥ キャンフリエ

ピアノ（堀口麻子）

クラリネット（白水摩由子）

チェロ（井上 忍）

曲目：ソング・オブ・ライフ〈世界遺産より〉

アベ・マリア いつか王子様が

ブエノスアイレスの四季 心を込めて花束を

トップ・オブ・ザ・ワールド 世界の約束

ニュー・シネマ・パラダイス 他



演奏：トリオ・ドゥ・キャンフリエ

トリオ・ドゥ・キャンフリエは、2003年4月結成。チェロ、クラリネット、ピアノのトリオで、オリジナルからアレンジ、クラシックからポピュラーまでジャンルを問わず幅広い演奏

をモットーとしています。camphrierはフランス語で楠の木の意味です。来聴者数は約150名を数えました。

・7月13日（金）18：30～19：30

演奏：筒井孝司氏

演奏楽器は、碗琴・オカリナ・

磁器製横笛・連鉢（有田磁器太鼓用）

曲目：大きな古時計 千の風になって

禁じられた遊び エリーゼのために

夏の思い出 荒城の月 刈干切唄

岳の新郎さん 有田音頭血山節

竹田の子守唄 浜辺の歌

小さな木の実 さとときび畑 他



演奏：筒井孝司氏

大有田焼振興協同組合専務理事を務める筒井孝司さんは、昭和20～30年代に有田焼のお茶碗・食器で演奏活動をされていた故和久陶平さん（元有田タイル社長）の碗琴に出会い、その磁器の澄んだ音色に感動しました。この有田の音を後輩に引き継いで欲しいという和久さんの思いの一端を伝えられればと願い、平成14年8月より「碗琴」演奏活動を始めました。

台風の影響で会場を博物館ロビーで行いましたが、来聴者数約100名を数えました。

（学芸課 課長 吉永陽三）

## 博美子ども広場（前期）実施報告

平成15年度から「子ども土曜クラブ」という名称で、小・中学生を対象にした博物館・美術館体験講座を実施してきましたが、今年度から「博物館・美術館子ども広場」と名称を変更。募集は前期・後期の2期に分けて行い、前期については15名の参加申込みがありました。活動は毎月第3土曜日の午前中に行い、前期は5～7月の3回実施しました。

### 第1回

テーマ：「博物館ってどんなところ？」

実施日時：5月19日（土）10:00～12:00

参加者数：12名

普段入ることができない収蔵庫や博物館の屋上などを見学。特に大きなエレベーターに、子どもたちの反応も大きかった。



### 第2回

テーマ：「土笛作り」

実施日時：6月16日（土）10:00～12:00

参加者数：10名

やきもの用の土（陶土）を使い、土笛を制作。土を丸めて、タコ糸で半分に割り、内側をくりぬいた後再び合わせ、最後に穴を開ければできあがり。簡単に見えるがやってみると難しくコツが必要ですが、子どもたちは思った以上に上手に作り上げていました。



### 第3回

テーマ：「探検!!美術館」

実施日時：7月21日（土）10:00～12:00

参加者数：11名

美術館常設特別展「もっと探検!!美術館」の開催にあわせ、館内でギャラリースケッチを実施。まず、展示されている作品の中から、自分が気に入った作品を選び、その作品をじっくり鑑賞しながら、スケッチをおこないました。

中学生の参加者は「創生」という版画について、「紫を基調とした美しい絵で、とても版画とは思えない絶妙なグラデーションが、この上ない存在感を持たせている」との感想を述べています。

どの参加者も「絵をじっくり見る」ことができたようでした。



（学芸員 藤田 務）

## 「夏休み子どもミュージアム 2007」実施報告

2001（平成13）年から始まった小学生むけのワークショップ「夏休み子どもミュージアム」も今年で7年目になりました。数年の試行錯誤をへて今年は7月31日の「佐賀城歴史めぐり」をかわきりに8月10日に実施した「親子学芸員」まで、6講座を行いました。



7月31日「佐賀城歴史めぐり」

過去の実施状況から、ここ数年一部の講座を除き参加者の減少がみられたことから、今年は募集チラシをリニューアルすると同時に、新しい講座「牛乳パックではがきを作ろう」を企画。特に近隣の小学校には学芸員が直接チラシを持参して全校生徒に配布していただいた結果、今年は予定定員（各講座20名）を大幅に超えた129件（兄弟・姉妹複数での希望も含む）の応募がありました。希望の多い講座では3倍以上もの応募が殺到し、担当者がうれしい悲鳴をあげるほどでした。



8月1日  
「勾玉作り  
チャレンジ教室」

8月2日  
「牛乳パックで  
はがきを作ろう」



8月4・5日「昆虫標本教室」

希望者増に対応し、出来るだけ多くの子どもたちに参加してもらいました。

昨年から大学生の「博物館実習」での実習も兼ねて小学生の対応をしてもらったため予定どおり講座を実施することができました。今年の応募状況から判断して今後も小学生むけのワークショップが求められていくのではないかと考えられます。



8月7・8日「竹細工チャレンジ教室」  
講師は栗山時雄さん（武雄市）



8月10日「親子学芸員」

今年参加した子どもたちが「また博物館と美術館にいきたい」「また来てよかった」と喜んでもらえるように、次年度以降も魅力ある企画を考えていきたいと思っています。  
（学芸員 富永さゆり）

## 平成19年度「先生のための博物館・美術館講座」を開催しました。

佐賀県立博物館・美術館では学校教育との連携を重要な課題と位置付け、この一環として平成16年度より「先生のための博物館・美術館講座」を開催しています。

本講座は、学校の子どもたちにもっと博物館・美術館を利用してもらうため、まずは先生方に、博物館・美術館の大変貴重な歴史資料や絵画、昔の道具などの見方やおもしろさを知っていただき、これらに親しみ楽しんでもらい、そこでの成果を博物館・美術館を利用した教育や学校教育の場に活かしていただくというものです。また、今年は佐賀自然史研究会の協力の下、身近な淡水魚の捕獲と飼育方法の実践・講習も開催しました。7月25日（水）～27日（金）および29日（日）の4日間で行い、県内の小中学校よりのべ26名の先生と、佐賀大学の先生を目指す学生17名、佐賀自然史研究会の参加者23名も加わり、有意義な講座となりました。

博物館の常設展を利用して、25日は自然史と考古学の分野、26日は歴史と民俗の分野、27日は美術と工芸の分野を紹介して、佐賀県の自然と歴史について見ていただきました。



29日は佐賀城公園近辺の川やクリークで淡水魚採集を実施し、佐賀県内に生息する淡水魚の捕獲から運搬、水槽に入れるまでの手順を体験していただきました。絶滅が心配されているメダカとその原因となる外来種のカダヤシとの見分け方を確認できました。



参加した先生からは、「佐賀のよさを改めて知ることができてよかった。」「有意義であり、来年も行ってほしい。」「絵画や焼き物の鑑賞ポイントがわかった。」「佐賀県立博物館の収蔵物が大変充実していることを知りました。是非子供たちに博物館に言ってみようように勧めたいと思います。」「実際に生き物を捕まえて飼育することが、地元の生物に興味を持つ子供を育てるためには大切だと痛感しました。」など喜びの声が多数聞かれました。  
(学芸員 矢川慎一郎)

## 平成19年度博物館実習を12日間にわたって実施しました。

期 間：7月30日（月）～8月10日（金）

実習生：14名



夏休みこどもミュージアムの補佐を行う



館外実習発表会の様子

### 展覧会の案内 《博物館・美術館主催による展覧会など》

#### ■第57回佐賀県美術展覧会

会場：佐賀県立博物館・美術館

観覧料：一般 210円(150円)・大学生 100円(70円)

※( )は団体20名以上の料金 高校生以下及び障害者の方は無料

期間：平成19年9月29日（土）～10月8日（月祝）

#### ■日韓古代文化交流「吉野ヶ里展（仮称）」

会場：佐賀県立美術館2、3、4号展示室

期間：平成20年1月1日（火）～2月11日（月祝）

#### ■博物館テーマ展示

会場：博物館3号展示室 テーマ展示コーナー 観覧料：無料

平成19年10月11日（木）～平成19年12月2日（日） 「百武兼行展」…美術

平成19年12月4日（火）～平成20年2月11日（月祝） 「昔の道具」…民俗

平成20年2月13日（水）～平成20年4月6日（日） 「きらめく個性—江戸絵画—」…美術

#### ■美術館 コレクション展

平成19年11月22日（木）～12月24日（月祝） 「収蔵名品撰」

平成20年3月7日（金）～4月6日（日） 「女性のよそおひ」

平成20年3月7日（金）～4月6日（日） 「山口猛彦展」

#### ■美術館 『肥前刀』

会場：美術館1号A展示室

観覧料：無料

#### ■美術館 『玉手箱』

会場：美術館1号B展示室

観覧料：無料

（博物館・美術館が所蔵する選りすぐりの名品を紹介します。）

佐賀県立博物館・美術館報 第139号

平成19年10月1日

編集発行 佐賀県立博物館・美術館

〒840-0041 佐賀市内1-15-23 ☎ 0952-24-3947 ☎ 0952-25-7006

ホームページアドレス [http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko\\_bunka/k\\_shisetsu/hakubutu/index.html](http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/hakubutu/index.html)

E-mail [hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp](mailto:hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp)

印 刷 株式会社 三光